

石垣駐屯地に弾薬搬入

海自輸送艦で大型車18台 部隊と装備品ほぼ完結

石垣市平徳大俣の陸上自衛隊石垣駐屯地（井上雄一朗司令兼八重山警備隊長、人員約570人、車両約200台）に18日午前、迎撃用ミサイルなどの弾薬類が搬入された。海上自衛隊の輸送艦「おおすみ」から大型車18台が南ぬ浜町クルーズ船岸壁に降揚げされ、市街地を通過して弾薬を運び込んだ。火薬庫4棟のうち整備済み3棟に保管された。数量は公表されていない。岸壁出口と駐屯地入り口では反対住民らが「ミサイルを持ち込むな」と抗議した。（8面に関連）



弾薬を積んだ大型車両「ササゲ」トブリッジを渡る。18日午前9時45分ごろ



前後を四輪駆動車に誘導されて石垣駐屯地に入る弾薬積載車両。18日午前11時ごろ

駐屯地では第303地対艦ミサイル中隊が敵艦を打つ12式地対艦誘導弾、第348隊が敵艦を狙う03式中距離地対空誘導弾、八重山警備隊が中距離多目的誘導弾と81式迫撃砲をそれぞれ

運用する。弾薬に先立ち、駐屯地には5日、ミサイル発射機や指揮統制装置、射撃用レーザ、装填車、小型四輪駆動車など車両約150台が運び込まれた。18日にも大型車約20台がクルーズ船岸壁から駐屯地に向かった。各部隊は16日に編成を終えており、弾薬類の搬入で部隊と装備品がほぼ完結したとみられる。火薬庫1棟、訓練場、グラウンドなどは次年度以降に整備される。4月2日には浜田磨一防衛相らが駐屯地を訪れ、地域関係者を招いて開設記念行事を予定している。「おおすみ」は午前7時ごろ、クルーズ船岸壁に接岸。車体前後に「火」の標識をつけた弾薬積載車両が午前9時半ごろ、前後を四輪駆動車に誘導されて移動を開始。ササゲトブリッジを左折して直進、市役所通りを通過してなたつ橋を左折、みね屋上房前を右折して石垣島製糖前を通り、大里農道から開南交差点を左折して駐屯地に入った。同日午前11時ごろには完了した。南ぬ浜町と駐屯地では原簿機動隊らが敷重に警戒した。

2023年3月19日付 八重山毎日新聞 | 面

観光客らの前を通過する弾薬を載せた車両＝18日午前9時50分ごろ、730交差点



異様な光景、「怖い」

石垣駐屯地 弾薬が市街地を走行

市民の多くが知らぬ間に

弾薬類を載せた大型車両がパトカーを先頭に長い列をつくり、市街地のメイン通りを抜けて農業集落を通過していく。18日午前、ミサイルなどの弾薬類が羽地浜町から石垣駐屯地に運ばれた。公道は物々しい雰囲気にも包まれたが、時刻やルートは公表されなかったため多くの市民の目に触れることなく搬入された。

午前9時50分ごろ、730交差点では足早に離島ターミナルを目指す観光客らの姿。車体前後に「火」と赤く表示された大型車両の走行に地元女性「北海道は「おっかない。北海道でも千歳の方で自衛隊車両が走っていることはあるが、弾薬類を積んだ車がこんな街中を走るなんて怖い」と驚いた様子。

新川地区で車列を眺めていた60代男性は、自衛隊配備に災害支援を期待する一方、「与那国、宮古、石垣に駐屯地ができたことで中国と台湾の問題がさらに心配になってきた。戦争を起させないようにするところが政治の当たり前の姿だと思つ」と望んだ。

名蔵地区の手前には数百坪の遊園地が誕生。道路沿いの畑で農作業をしている80代男性は「いったい何事か」と心配そうに車列を指さした。

開港地区では、5日の子供連入に続き集落前を弾薬が通過。50代女性は「驚くを通り越して今は驚めている。やっぱり国や権力には負けてしまうのか」と深くため息をつき、「やっぱり住民投票はやってほしいかった。当初は住民投票で動いをつけていこうと、地域にも明るい兆しがあった」と悔やむ。

「中山市長は専断事項と書いて聞かされるままに事を進めさせ、基地ができる地域のことばかり考えていないのではないかと憤りをにじませ、「市街地に住んでいる方は開港や於茂登地域のことを知らない方も多いと思う。私たちの生活は今後どうなってしまうのだろうか」と声を落とした。

「島を戦世にするな」 市民連絡会らが抗議の声

老女も強制的に移動



強制退去させられる人々＝18日午前、南の浜町

「ミサイル教条をやめて、攻撃の対象になる」「石垣海軍基地を」

くらさない市民連絡会のメンバー約10人が18日午前6時半、南の浜町クルーズ船埠頭入り口に集まり、反対の声を上げ続け、一部がゲート前に立ち

上戸部隊の輸送艇「おおすみ」が訓練を上げて発岸。その後、艦橋のタワップがコンテナを積み込むのが続々と確認された。メンバーは拡声器を使って「島が戦場になることを止めて、ミサイルは外交を、歴史的に正しい目を持ってほしい」と訴えた。

艦橋が隠れる。輸送艇は「車両が通りません。道を空けて下さい」と呼び掛けに、応じなかった兵士が道路上で立ちふさがりの行状を

港務管理の担当者らの「車両が通りません。道を空けて下さい」と呼び掛けに、応じなかった兵士が道路上で立ちふさがりの行状を、原簿機動隊に強制的に移動させられた。

「いかにと暮らしを守り、バリエーションの山形市人(約)も、退去させようとした兵士の行動を、女性を引っぱるなど、山形市人は「生理現象がある」と訴え、約1分後に解散されたが、何もできない、こんな状況が、誰のための訓練か、こんな理不感が言われているのか」と怒り心頭だった。山形市人は駐屯地ゲート前で抗議を繰り出す。母を戦争マリアで、妹を栄養失調で、兄を文筆無言で失った戦争体験を語り、この島を戦世にしてはいけない。自衛隊基地撤去と「福島の」と声を張り上げた。



「おおすみ」の甲板上から南平を渡る艦橋から、抗議の人たちの猛攻撃を捉。次＝18日午前、南の浜町



強制的移入後、火災車の入り口から見える南の浜町をながめる後、18日午前、石垣市街



原簿機動隊が行進する中、押入抗議人たちに抗議する人々＝18日午前、南の浜町

「一方、『おおすみ』の甲板上で隊員が駐在時に両手を大々張っている行為が確認され、『おさけり』のことが二回かにしているのが一歩かたして、防衛省連文書決定による石垣島

歴史的な大転換

ミサイル長射程化に懸念

陸上自衛隊石垣駐屯地は、石垣駐屯地にも配備された12式対艦誘導弾を長射程の導入にほぼ完了し、射撃させる計画だ。戦後68年、自衛隊基地も通常期もなかつた石垣島にとつて歴史的な転換。40年12月に開港された石垣島をもち、長射程ミサイルを石垣島に配備することを当該基地攻撃能力(敵)を攻撃するとはできない。基地攻撃能力の保有を明記しており、今後は石垣駐屯地への長射程ミサイルの配備が焦点となる。

中山義隆市長も18日、駐屯地開設報告を受けた後、長射程ミサイルの配備が計画された場合の対応を記者団に問われ、「今後、開発されて配備という際には説明を聞いて判断したい」と否定的な反応を示した。

沿岸防衛部隊が駐屯する母基地では電子部隊に加える定まった地対艦誘導隊の配備計画が突如公表された。今後、石垣島と周囲を後方から支援する形で長射程ミサイルを配備する可能性は否定できない。

その際、石垣島は一攻撃の配備が焦点となる。防衛省連文書決定による石垣島

さらに「長射程ミサイル配備の条件を定め、安保閣議」

「防衛省は、石垣島に配備するミサイルについて、防衛のためには必要と認められているが、浜田閣議決定(2)の範囲内において、長射程ミサイルを配備する可能性は否定できない。その際、石垣島は一攻撃の配備が焦点となる。」

中山義隆市長も18日、駐屯地開設報告を受けた後、長射程ミサイルの配備が計画された場合の対応を記者団に問われ、「今後、開発されて配備という際には説明を聞いて判断したい」と否定的な反応を示した。

防衛省連文書決定による石垣島

さらに「長射程ミサイル配備の条件を定め、安保閣議」

中山義隆市長も18日、駐屯地開設報告を受けた後、長射程ミサイルの配備が計画された場合の対応を記者団に問われ、「今後、開発されて配備という際には説明を聞いて判断したい」と否定的な反応を示した。

住民投票「諦めない」

「民意吸い上げる前例を」

地屯駐石自陸

石垣市平得大俣の陸上自衛隊石垣駐屯地が16日に開設されたが、その賛否を問う住民投票を巡る訴訟は今も続いている。駐屯地が完成しているのに訴えの利益がないのではとの意見もあるが、原告で住民投票を求める会代表の金城龍太郎さん(32)は「住民の意見を吸い上げる機会があったという前例を残したい」とモチベーションを保っている。

複雑な心境

金城さんは、アパートのある真栄里から県道79号を通り、開南交差点から左折して大里農道沿いにある実家の農園に通つ。今はマンゴーが花をつける時期。花軸が倒れないよう、花をつり上げる作業に忙しい。実家は駐屯地から東方に300〜400m先。この間、工事の進捗をみてきた。風向きによっては工事音が騒音と化す。

「建物が建ってから早かった」と振り返る駐屯地は、必要な施設が整ったとして16日に開設された。そこに勤務する隊員の中には同級生や先輩・後輩もいる。「お帰りという気持ちがある一方で、快く受け入れられる状況ではない面もある。配備問題で住民

が分断され、笑っている方も涙をのんでいる方もいる

のですごく複雑」と吐露す

重みをずっと

求める会は2018年12月、石垣市自治基本条例当

住民投票を求める会

金城龍太郎代表



マンゴーの花のつり上げ作業を行う金城龍太郎さん=15日午後

る」という。

「判断」ではない

一方、中山義隆市長や市議会与党には「国の専権事項である国防について住民投票で賛否を問うのはそぐわない」との意見がある。さらに、これまでの市長選や市議選などで民意も出たとの解釈もある。

時で実施義務の要件となる有権者の4分の1以上に当たる1万4000筆余りの署名を集め、地方自治法に基づいて直接請求したのが実現しなかった。このため19年9月、同条例に基づく住民投票の実施義務の履行を求める裁判に踏み切った。

同訴訟は21年8月、最高裁で原告の請求棄却が確定したが、これに先立つ同年4月、求める会の金城さんらは別の訴訟を提起していた。同条例の要件を満たす住民投票実施を直接請求した場合に有権者が投票可能な地位にあることの確認を求める当事者訴訟で、ことし1月17日に那覇地裁で結審、5月23日に判決が出る。

長い法廷闘争にも「日本の文化にはデモ行進など抗議活動は合わず、なかなか参加する方もいないが、住所や印鑑などプライバシーをさらけ出してまで行う署名は体を張って行動するのに匹敵する勇氣だと思つ。この重みをずっと感じている。

ミサイル配備

平得大侯に建設中の陸上自衛隊石垣駐屯地が16日、開設された。陸上自衛隊の石垣島配備計画は、中国の海洋進出や台湾有事を念頭においた、南西諸島の防衛力強化の一環。駐屯地には12式地对艦誘導弾(SSH)03式中距離地对空誘導弾(中SAM)、警備部隊、ミサイル部隊の約570人の隊員が配属された。警備部隊は駐屯地の警備や災害時の対応に当たる。ミサイル部隊は、地上から海上の艦艇に向けて発射する射程数百キロの12式地对艦ミサイルや地上から航空機や巡航ミサイルに発射する中距離対空ミサイルの任務に当たる。駐屯地には今後、12式地对艦ミサイルを改良して射程およそ千キロの国産ミサイルを配備する予定。

ツブの吉田圭秀陸上幕僚長は石垣駐屯地が開設したことで「南西地域の自衛隊配備の空白地が埋められた」と述べた。配備によって攻撃の対象となるといふ懸念には「侵攻が利益にあわないと判断する抑止力が攻撃を防ぐことになる」と強調した。

危険の始まり

自衛隊にとって空白地解消は喜ばしいことかも知れないが、逆に八重山は

陸上自衛隊石垣駐屯地開設

住民の生命財産を守れない現実

駐屯地が設置されたため、標的にされる恐れがある。防衛省のシンクタンクである防衛研究所防衛研究室長・高橋杉雄氏は「琉球新報」1月3日号で、台湾有事の際、中国が南西諸島の飛行場、港湾をミサイルで攻撃する考えられ、民間も含め、軍事的に使用できる施設が対象となる。無防備なら上陸して占拠しようとする可能性もあると述べている。そのうえで、日米が半年

〜1年ほど時間をかけ、長期戦に持ち込めば勝利する。しかし、地域全体が、台湾を含めウクライナのような破壊を受ける可能性が高いと述べている。抑止力、反撃力を高めてもこのような惨状を予測している。

現実とどう向き合うか

だが、島嶼が長期に渡り超近代兵器でウクライナのように攻撃され、トマホーク等あらゆる手段を講じての奪還作戦となると、住民の生命は脅かされ財産は徹底的に破壊されることは明白だ。シェルター建設や住民の避難、疎開議論は、陸自が配備されても、住民を守る事が出来ないという証左だ。「国民保護計画」など画餅に過ぎないのではないか。

戦後、78年にして自衛隊という名の軍隊が再び開設された。住民は否が応でも、その現実と向き合わなければならぬ。そのとき、指針となるのは、軍隊によって引き起こされたマリアナ地獄、食糧難など過酷な戦争の記憶や体験であろう。西表島南風見田の砂岩に刻まれた「忘勿石」は単なるモニュメントではない。3600余人の戦争犠牲者の無念の叫びを無にしてはならない。